

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価（3月23日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、小中高一貫した、系統性のある教育課程の編成と、児童・生徒の身につけたい力を明確にした授業づくりを進める。	①教科の身につけたい力一覧を参考に、学部間のつながり、系統性の意味について共通理解を図り、授業づくりを行う。また、児童・生徒が身につけた力は、個別教育計画やアセスメントシートに照らし客観的に評価していく。 ②学校生活全般を通し、また教科横断的に、児童・生徒ができるようになったことを、見える化し、示すことで、児童・生徒自ら実感し、主体的な学びにつながるような授業づくりを行う。	①教科ごと身につけたい力一覧を参考に、授業のねらい、身につけたい力を学習指導案に明記し、段階の見える化を図る。 ①授業後には教科担当者、学年会等で授業を振り返り、評価基準や、できた要件を指導者で共有し、具体的な根拠に基づく評価を行う。 ②キャリア・パスポートの掲示と評価、作業学習は作業日誌での振り返りを実施。分教室は目標達成シートの活用により、主体的な行を促す。	①学習指導案に授業のねらい、身につけたい力を明記し、見える化を図ったか。 ①授業の振り返りでは、根拠に基づいた評価ができたか。 ②キャリア・パスポートの掲示及び評価、作業日誌、目標達成シートの活用が行えたか。	①授業のねらい、身につけたい力の学習指導案への明記がほぼ定着してきている。校内研究は、「教科の特色を踏まえた授業改善」をテーマに、各学年でサブテーマを設け、「身につけたい力」を明確にし授業改善に取り組んだ。学年ごと各教科の特徴を踏まえて身につけたい力を明確にし、授業計画を作成した。身につけたい力を行動目標として学年内で共有し、児童・生徒を共通の視点から評価できる体制が整った。その結果、全学年から48件の授業改善アイデアが出された。教育内容一覧は、音楽、体育、美術、生活・生活単元について作成した。学習指導要領と照らし合わせながら、各教科についてまとめた。 中達成→発展 ②小中学部は児童・生徒の実態に合わせた形式でキャリア・パスポートを作成、掲示し、自身が頑張る授業や係活動、役割を自覚して行うことができた。高等部は、作業日誌を活用して振り返り、また各学年、生徒と一緒にキャリア・パスポート作成に取り組めた。分教室は、岸高祭や学習発表会等の行事や校内実習・現場実習、各教科の授業において、生徒自身が目標達成シートを活用し、自分の行動や役割を自覚して行動した。 達成→継続・発展	①「音楽・美術・体育の身につけたい力一覧」「学びの山場関連計画」等を活用し、集団授業としての身につけたい力を明記することを定着させていく。校内研究の進め方を学部ごととし、サブテーマを授業で設定したことで、取り組み易かったところがある。次年度も、今年度の実践を参考に、より良い研究を行っていききたい。教育内容一覧は今後、教科等年間指導計画作成に活かせるように整えていく。 ②キャリア・パスポートや目標達成シート等で児童・生徒が活動や役割を意識し、振り返ることができている。今後も活動を継続しながら、より効果的な活用を目指していく。	授業改善の48のアイデアは、様々取り組んだ中で、出てきた意見を試みる様子が伺えた。学年レベルでの身につけさせたい力と個別目標の整合性について、「身につけたい力の一覧」は、教科ごと学校教育目標に沿っている。学年ごとだが、個人差があるので、児童・生徒によって、どの部分を目指すのかなど微調整しながら明確にしている。	①ねらい、身につけたい力を意識した授業づくりが定着してきた。学習活動の様子を担任間で共有し、ねらいの達成状況を判じた。校内研究は、学部ごとサブテーマを設けた取り組みが見られた。定着と発展を図っていく。 ②児童・生徒の身についた力の見える化が、主体的な学びにつながっている。継続していく。	①「身につけたい力一覧」「教育内容一覧」等を効果的に活用すること、また校内研究をより実効的に行うため、学部単位での実施を中心に考えていく。 ②キャリア・パスポート等の効果的な活用を模索し、取り組みを共有することでより良いものとしていく。
2 (幼 児・児 童・) 生徒指 導・支 援	児童・生徒の教育的ニーズに基づき、多角的な視点からアセスメントを行い、個に応じた力の育成を図るとともに、組織的、効果的な支援を行っていく。	①小中学部はアセスメントシートを活用し、効果的な支援につなげることができたかを検証する。校外の関係者との連携により、多角的な児童・生徒支援を行う。 ②教材データや相談室内に設置した実物教材を活用し、教材研究、教材開発を進めていく。	①小中学部はアセスメントシートを活用しながら、活用状況を専門職にフィードバックし、ブロック内専門職とも連携しながら、より使いやすいものにしていく。高等部はーズに応じたアセスメントを行い、1年には太田ステージを実施し、中学部のアセスメントシートを活用しながら生徒の実態把握を行う。 ①ブロック内専門職巡回時にミニ研修会を実施する等の機会を増やす。 ②学習指導案、授業の提示資料等をデータベース化する。また校内の共有教材を集め、課題別学習等で活用できるようにする。	①小中学部はアセスメントシートの活用が行えたか。また高等部は別の形での実態把握が行えたか。 ①ブロック内専門職巡回時にミニ研修会施できたか。 ②データベース化ができたか、また共有教材の活用ができたか。	①小学部は児童全員のアセスメントを実施し、個別教育計画への活用も進んでいるが、実態の変化への対応、実施時期等の検討を行っている。中学部は、1月に完成したシートで、2、3月に実施する。高等部は1年生全員の生徒に対して、太田ステージを実施し、個別教育計画や、日々の学習活動に反映した。分教室は、相談担当が生徒の学習活動を観察し、支援につなげた。ブロック内専門職巡回時のミニ研修会を今後も継続し、教育力向上につなげる。 達成→発展 ②小中学部は、学習指導案、授業の提示資料等を、各学年のフォルダへ保管し、他学年も参照できる環境が整っている。小学部は学部の共通教材についてもリストの作成を検討している。高等部、分教室ともに、各学年の指導案フォルダを活用し、様々な学習場面で共有することができた。高等部は課題別学習の自作教材をデータにして活用することができた。夏季休業中に相談室を整理し、実物教材の貸し出しを行っている。本校における、共有教材の課題別学習等での活用については、全学部、夏季休業期間中に行われた校内の自作教材展をきっかけに、他の教員の教材を参照し、自身の教材の作製・改善を行う事例が複数見られた。 達成→定着	①小中学部は、作成したシートを元に、アセスメントを実施するが、実施時期等の検討とともに、個別教育計画への活用、日々の指導、支援に活かすようにしていく。高等部は今年度の実践を、次年度以降どのように継続していくか、本校高等部のアセスメント、分教室の客観的アセスメントはどのようにしていくのか今後の課題となる。ブロック内専門職巡回時にミニ研修会を定着させるとともに、研修内容を他の教員にも周知し、教員の専門性向上につなげたい。 ②学習指導案、授業の提示資料等は、サーバ内のフォルダでの保管が定着しているので、小学部が検討し始めているような、学部の共通教材のリスト作成、効率的な活用方法について今後考えていきたい。課題別学習の教材については、校内で実施した自作教材展をきっかけに、教材の作製・改善が進んだ。相談室内の実物教材の充実を図り、教材の共有化を促進していきたい。	4年間の大きな目標に「組織的、効果的な支援を行う」とある。目標達成状況、課題の改善の中に「アセスメント結果の情報共有の仕方」「保護者の参画の仕方」といった文言がない。「ケースの実施、面談の充実」であるが、そこまでの情報共有の仕方が重要。行動面の支援に対して、学校側の指導方法、支援方法について、保護者と共有していることが大切。	①小中学部は、心理職作成のアセスメントシートの活用、高等部は太田ステージの活用等、実態把握の流れが定着してきた。実態把握を具体的に指導・支援につなげていくかが今後課題となる。 ②学習データや実物教材の共有化が進んできた。今後も更に継続、発展させていきたい。	①アセスメントシートの活用及び、行動観察、ケース会等での情報共有により、児童・生徒の認知・行動・生活力等を多面的に把握し、具体的な指導、支援につなげていく。 ②教育相談チームを中心に、教材の共有化を継続、発展させていく。
3 進路指 導・支 援	児童生徒が地域社会で豊かに生きる力を育むために、鶴見のキャリア教育目標を踏まえ、	①学部に合わせてキャリア教育、進路に関する情報を、進路学習会等を通して教員、保護者と共有することで、児童・生徒指導、支援につなげ	①職員向け、保護者向けに企業や福祉事業所の見学会を実施する。学校運営協議会主催の進路学習会を夏季休業中に実施し、教職員の	①学校運営協議会主催の進路学習会を実施できたか。また保護者対進路学習会	①保護者、職員向けの企業、福祉事業所見学会は、学部を問わず参加した。学校運営協議会主催の進路学習会にも、全学部の保護者が参加し、高等部卒業後の生活について積極的に質問する様子があり、関心の高さが伺えた。保護者対象進路学習会は、12	①保護者、職員向けの企業、福祉事業所見学会、学校運営協議会主催の進路学習会、保護者対象進路学習会、いずれも学部を問わず多くの参加があり、感想にも有意義な時間だったことが表れていた。	雇用部会で、鶴見支援学校の地域協働、学習会に評価をいただいている。進路学習会が児童生	①保護者、職員向けの企業、福祉事業所見学会、進路学習会には全学部から	①今後もニーズに合わせた学習会等を実施していくとともに、学習

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価(3月23日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	ライフキャリア、 一クキャリア両面 での系統的なキャ リア教育の充実 を図る。	ていく。	研修へもなげる。また、保 護者対象進路学習会の内容 を教職員とも共有きるよう 工夫する。	の内容を職員間 で共有できた か。	月に高等部保護者対象、1月に小中学部保護者対象 の進路学習会を実施した。学部を問わず多くの参加 があり、感想にも有意義な時間だったことが表れて いた。今後もニーズに合わせた見学会や学習会を実 施していく。 達成→継続	今後もニーズに合わせた学習会等を実施 していくとともに、参加できなかった教 員も情報を共有し、日々の指導の参考に なるようにしていく。	徒指導支援にどうつ ながったか、児童生 徒目線の言葉が少な い。参加人数、感想 等を記載し、評価の 具体化が課題。	保護者が参加し た。得た情報を 児童・生徒指導 に活かすことが 課題である。	会が、児童・ 生徒支援にど う生かされた か共有し、次 の指導、支援 に活かす。	
4	地域等と の協働	児童・生徒の学び の場をより地域に 広げ、また地域へ の情報発信を行う ことで、障害のある 児童・生徒の理解 を進める。地域 と連携した教育活 動を推進し、共生 社会の実現を目指 していく。	①保護者や地域のニーズを把握する機会を増やし、より丁寧な情報提供を行う。センター的機能の一環として、校内の教材・教具を地域に紹介することで、地域の特別支援教育に関する理解の向上に努める。 ②学部間、学校間交流、地域との協働を継続し、児童・生徒の学びの場を地域に広げる。ボランティアの拡充を図り、地域と連携した教育活動を推進する。	①進路学習会等でのアンケートを通じて、参加者のニーズを把握し、情報提供の際の参考としていく。 ①校内の共有教材をホームページやXで紹介する。また学部で紹介するための共通教材ファイルを作成し、巡回相談時に活用する。 ②校内における学部内、学部間交流を引き続き行うと共に、高等部は外部機関と連携し、作業学習や実習等で、生徒が地域に出る機会を広げていく。分教室は引き続き、近隣の公園整備や清掃活動、地域の行事に参加し、地域交流、地域貢献を図っていく。 ②地域の回覧板や社協のボランティアセンタを通じてボランティアを募集する。校内のニーズを踏まえてボランティアの拡充を図る。	①地域や保護者のニーズを把握、情報提供の参考できたか。 ①共有教材等を地域へ発信、また巡回相談等で活用できたか。 ②校内における学部内、学部間交流を通し、児童・生徒間の関わりが広がられたか。 ②外部機関と連携することで、生徒が地域と関わりながら学びを行うことができたか。 ②ボランティアの拡充を図れたか。	①地域事業所の夏祭り等に職員がボランティアで参加し、地域の方との交流、情報交換を行った。校内の共有教材をホームページで紹介するため、教材の分類、整理を行った。現在、HPのトップページに「教材コーナー」というバナーを作成し、特別支援教育の理解向上に努めている。 達成→継続、発展 ②小学部は生活科を中心に異学年交流を実施。学部間交流は、高等部生徒による読み聞かせなどの交流が進んだ。中学部は高等部の実習報告会を見学した。高等部は、他学部の下膳の手伝い等で、教職員・児童生徒と交流した。地域交流は、小学部4年の駒岡小交流、中学部は外部講師による授業で、本校理解の機会とした。高等部は駒岡ケアプラザでの清掃活動、模擬選挙実施では、地域のボランティアの方との交流す。分教室は「すこやか祭」や「すこやか音楽交流会」に参加し、地域との交流を深めた。地域ケアプラザ主催のプロジェクトへは、展示作品を通して地域への情報発信を行った。 達成→継続、発展 本校への行事、縫製作業、児童受け入れ、配膳、下膳等様々なボランティアの協力により、教育活動が充実している。 達成→定着	①センター的機能の一環として、校内の共有教材をホームページで紹介するため、教材の分類、整理を行った。HPのトップページに「教材コーナー」というバナーを作成した。地域の学校、外部の方も見るようにしているの で、今後これらの活用状況を検証するとともに、更なる情報も発信していく。 ②学部内、学部間交流は今後も継続していく。地域との授業交流、ゲストティーチャーによる授業も定例化しており、活動を継続していく。 地域との交流は、定期的に行うことができしており、今後も継続して実施していく。ボランティアの状況は、現在、定期活動のボランティアは18名、週当たり延べ51名のボランティアが活動している。その他にも行事ボランティアが延べ15名、縫製ボランティア(不定期)が延べ5名活動しており、昨年度よりも大幅に増加した。定期活動のボランティアはそのまま継続して活動を依頼する予定のため県予算の増額を要求していきたい。	教材をHPに載せていることについて、保護者はあまり知らない。HPを見ない方も多く、今後「速く」に移行するので、活用して発信してほしい。 登校時や校外歩行の見守り、給食配膳等でボランティアをしていただいている。基本的には、駒岡地区の連合会、自治会回覧板にチラシを入れている。地域の方の協力を今後もお願いしていきたい。 保護者アンケートでは、「わからない」等の回答が多く、取り組みの工夫が求められる。	①校内の共有教材をHPで紹介している。これらの情報周知と共に、活用状況を検証するとともに、更なる情報も発信していく。 ②校内交流、分教室の岸根高校との交流、他校や地域との授業交流は定着している。ボランティアの活用は今後も大切となる。地域への情報発信を継続していく。	①教材コーナーの閲覧、活用状況を、巡回相談時に確認し、ニーズに合わせた情報提供を行う。また速くや巡回相談時を活用し、HPの情報について周知する。 ②地域との交流による学校理解の促進、地域の力を教育に活かすことは、今後も継続することが大切である。今後ボランティアとの連携を安全で安心な教育活動の充実につなげていく。
5	学校管理 学校運営	安全安心な学校づくりのため、良好な教育環境の整備と、危機管理体制の確立を図り、地域に信頼される学校づくりに取り組む。教員の教育力、専門性の向上、不祥事の防止を図ると共に、効率的な業務遂行と働き方改革を推進する。	①避難訓練は想定や役割を変えながら実施し、実効性のあるものとする。また大規模災害時の動きについては、鶴見区と連携を始めており、本校の役割等を確認するとともに、地域の施設との連携も進めていく。 ②様々な働き方の教員が、自身のワークライフバランスを取りながら、効率的に業務が行えるよう、業務改善を進めていく。教員だけでなく、学校外の視点を取り入れ、改革を促進していく。	①学期ごとの全校避難訓練は、想定を変えて計画、実施、見直しを行う。加えてM訓練(未公開、未通知)を計画、実施する。 ①鶴見区と連携し、補足的避難場所としての具体的な役割の確認、物品の準備等を進める。 ②学校運営協議会の部会と連携し、外部からの視点を取り入れ、働き方改革を推進していく。	①全校避難訓練は実効的なものとなったか。 ①鶴見区との連携を図り、補足的避難場所としての具体的な役割を確認できたか。 ②外部の視点を働き方改革につなげることで、具体的な結果が現れたか。	①避難訓練は、役割を変えて実施。シェイクアウト訓練を重ね、児童生徒も落ち着いて参加できた。安否確認や状況報告を訓練に組み入れ、役割を明確にした。避難訓練やDIG訓練等を通して教員の防災意識が高まり、段ボールベッドの組み立てや寝袋等体験的な学習を計画・実施することにつながった。補足的避難場所設置に向けて、鍵のやり取りや備蓄品の保管場所の共有等、物理的な準備を進めることができた。区の防災担当者で行った訓練の様子を校内で共有するまでには至っていない。 中達成→定着、発展 ②業務改善に向けた取り組みは、学G会の中で、年間を通して行った。学校運営協議会委員にも業務改善に関して助言をいただき、検討を進めた。 ②業務改善に向けた取り組みは、学G会の中で、年間を通して行った。学校運営協議会委員にも業務改善に関して助言をいただき、検討を進めた。個別教育計画の書式を見直し、試案の実施にむけて検討中である。また日課表の改訂に向けては、職員全体で確認をしながら進めた。今後も検討の継続が必要である。 中達成→継続	①役割を変えての避難訓練、定期的なシェイクアウト訓練、想定を変えての訓練を今後も継続して行う。 補足的避難場所設置に関連し、区の防災担当者との情報共有、訓練の様子について、校内の防災研修への活用を検討していきたい。 ①補足的避難所への協力、地域防災の取り組みは、今後も鶴見区と連携をすることで進めていく。また教職員への情報提供も定期的に行い、災害発生時には主体的に動けるよう準備を整えていく。 ②R9年度実施を見据え、放課後に授業準備等の時間が確保できるよう日課の見直しを進めている。 業務改善に向けた取り組みは、今後も学G会の中で、また学校運営協議会委員にも、様々な視点から業務改善に関して助言をいただき、検討を進めていく。	防災は避難よりもその後が大事で、線 でつながった支援が 必要である。校内 ではダンボールベッ トや寝袋体験、備蓄 食料の喫食を通して 防災の体験を進め ている。訓練は、マ ニユアルを頭に入れ 、想定外のことを考 え行動することが必 要。 鶴見支援学校は補 足的避難場所に指 定され、今年度は具 体的になってきた。 働き方改革の点 では、教員の交通誘 導に関わる時間、SB 発車後の時間等、日 課表の改訂等業務改 善を検討している。	①避難訓練をより実効的なものとするため、教員の役割をかえたり、定期定期にシェイクアウト訓練を行うなど工夫した。積み重ねの訓練 ②課題解決のための話し合いを積み重ねた。具体的な改善方策の検討は今後も継続課題としていく。	①今年度試みたマイナーチェンジを、今も継続、見直しを行い、児童・生徒が主体的に行動できるようにしていく。また、防災教育を更に充実させていく。 ②校内の検討のみならず、学校運営協議会との連携で、具体的に改善できるように取り組んでいく。

